

## 様式 1

「職と職務の再編」の取組に係る推進地区による学校の働き方改革取組状況報告書

市町教育委員会名

三島市教育委員会

### 1 学校におけるスリム化・スクラップした業務（現在検討している業務を含む）

本研究に臨むにあたっては、すべての教職員が参画する意識をもつことや働き方の意識を見直す機会にすることを大事にしたいと考えている。

#### ○ 業務のスリム化に向けた検討について

- ・多くの学校が、「行事」（運動会・宿泊的行事・学習発表会等）を取り上げ、その行事にかかわる業務を全職員でリストアップ
- ・「行事」を取り上げなかった学校では、「学年」または「指導部」の分掌を取り上げ、業務をリストアップ
- ・リストアップした業務について、教育的価値や負担の大きさをもとに、「引き続き推進」「協働で取り組む」「重点的に見直す」「削減や移管」に分類した。

#### ○ 分類したものをもとに、次年度の行事計画や教育活動に反映していく予定

- （例）・運動会の入退場の放送は全学年で統一 ・テスト計画表作成は不要
- ・行事後の事後指導の改善による通常の授業時間確保。
- ・地区別生徒会の削減 など

### 2 学校における今までの校務分掌から新たに変更した業務、協働した業務（現在検討している業務を含む）

例：教員から事務職員へ移管・協働した業務

教員から養護教諭へ移管・協働した業務

新たに共同学校事務室や市町教育委員会等に移管・協働した業務

上記1で見直したことは、次年度の計画に反映できるよう各校が取り組んでいく予定である。

#### ○ 今後、協働や削減・移管等を検討すること

- ・学校ブログの掲載（教頭だけではなく、教諭も行う体制）
- ・特活部の業務の一部を教科部に移管する
- ・運動会運営の一部業務をPTAや協働本部に協力を仰ぐ
- ・PTA活動の縮小

慣例的に取り組んでいたものを子どもたちへの教育効果等を考慮しつつ削減

### 3 市町教育委員会での進捗状況等

例：〇月に校長会にて、各学校の進捗状況を確認

働き方改革推進会議で協議し、校長会や教頭会にて伝達

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務分掌会議で、県事務と市事務の分掌を校内で統一するためのモデル案（R7.4.1版）を通知</li> <li>・チラシ配布を紙媒体からWeb配信に変更（学校の負担軽減）</li> <li>・従来、学校から市教委に提出するメール文書は、担当個人宛てになっていた。そのため、提出専用メールアドレスを設定し、提出先を統一（R7.4.1正式開始） ※個人にかかわるものは除く</li> <li>・校長会議にて「職と職務の再編」の目的や趣旨を確認（義務教育課の説明）</li> </ul>
6月	<p>「職と職務の再編推進委員会」の設置を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進委員の選定、依頼</li> <li>・取組の目的や見通しを協議</li> </ul>
7月	<p>「職と職務の再編推進委員会（第1回）」を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の目的や趣旨について（義務教育課による説明）</li> <li>・取組の方向性に関する協議・共有</li> </ul> <p>モデル校（北小・北中）の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が本研究に関わる方法について協議</li> <li>→ 行事にかかる業務の見直しを行う方向で進めることになる。</li> </ul>
10月	<p>「職と職務の再編推進委員会（第2回）」を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務仕分けと意見交換（リストアップされた行事関連業務を分類）</li> <li>・職別標準的職務シート（案）の提示と情報交換</li> </ul>
11月	校長会議にて、推進委員会の報告及び業務仕分けの取組を依頼する。
1月	<p>「職と職務の再編推進委員会（第3回）」を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度の各校の取組報告</li> <li>・令和8年度の取組について</li> </ul>

#### 4 課題とその解決案、次年度に向けて

<p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務のリストアップや仕分けを行う時間の確保（時間の生み出し方）</li> <li>・取組の成果は、今回の協議を次年度に生かせるかにかかっている。</li> <li>・教育的価値や「子どものため」と考えると、思いのほか、削減が難しい。</li> <li>・業務を外部に移管する場合は、いかにして地域の理解を得るか。</li> </ul> <p>（次年度に向けて）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記1・2で記載した各校の取組が、次年度の教育活動にどう反映されたか把握</li> <li>・職別標準的職務シート（三島版）の作成 ※現在は案の段階</li> <li>・共有サーバーの整理整頓</li> <li>・共有サーバーの使用ルールの明確化</li> <li>・意識改革（行事や校務分掌の業務仕分け等を通じて培った日頃からの業務改善）</li> <li>・文書管理の負担軽減（ファイリングシステムの標準化）</li> <li>・教育委員会からメール送信ルールの一部改訂</li> </ul>
---

静岡県教育委員会指定事業(推進地区)  
 学校経営における職と職務の再編のための研究事業

学校経営における職と職務の再編「学校事務再編」について(通知)  
 市町立小中学校教員、事務職員等の標準的職務について(通知)

**めざす姿【目標】**  
 「全ての子供たちへのよりよい教育の実現」(教育の質の向上)  
 「教員の子供と向き合う時間の拡充」(時間外在校等時間の縮減)

学校が対応する課題の複雑化・困難化と家庭・地域をめぐる環境の変化  
 (不登校・いじめ・特別な支援・児童虐待・外国人・貧困・ヤングケアラー等)

**めざす姿【目標】に向かうイメージ(案)**

- ✓ リーダーシップの総量をアップさせること(分散型リーダーシップ)による学校の機能強化
- ✓ 教職員等のマインドチェンジ

【多職種連携・地域連携  
 教職員の専門性向上】

主体的で対話的な授業  
 学年・学校経営力の向上  
 (生徒指導が機能する授業)

**チーム学校**

学校教育目標を全職員が共有し、  
 目標に向かって機能する組織

**校務改革**

**働き方改革**

【職を超えた校務分掌の整理合理化】  
 兼ねられる、一緒にやる等、一人一役的な発想からの脱却

【働き方の意識改善】  
 子供と向き合う時間の確保  
 教職員のwell-being

**協議内容(案)**

**協議メンバー**

職別標準的職務シート(三島市版)作成
職員室のファイリング統一(小中別) (共有フォルダの分類検討)
保護者への振込入金に関すること (返金・スポ振振込等)
ミライムの活用等について (来客・出張・休暇等の入力等)

- 校長(会長・事務担当・副会長)
- 教頭(会長、事務担当・副会長)
- 共同学校事務室・市事務職員
- 主幹教諭・教務主任
- 養護教諭・栄養教諭・栄養士
- 事務局(教育総務課・学校教育課)



## 2 職別標準的職務シート

モデル案について検討し、気付いたことや感想を情報交換

### 【業務の見直し・簡略化・外部委託】

- ・法令や根拠のある業務は削減が難しいが、通知表や児童生徒会など根拠がないものにも教育的価値がある。「印がない＝削れる」という判断は危険であり、子ども目線の価値を重視すべき。
- ・学級だよりや学年通信を出す先生が「良い先生」とされる風潮を見直す必要がある。
- ・印付き業務の簡略化は市教委と連携して進める。
- ・通知表の評価基準は教務主任研修で擦り合わせを。
- ・外部機関の活用（例：テスト作成、電話対応、清掃）により、教職員の負担軽減可。
- ・ICT 支援員による WEB 更新、プール管理、就学時健康診断の一括実施なども検討対象。
- ・副教材や給食食材の市単位での統一調達で、コスト削減と業務効率化が期待される。

### 【教職員の働き方と負担軽減】

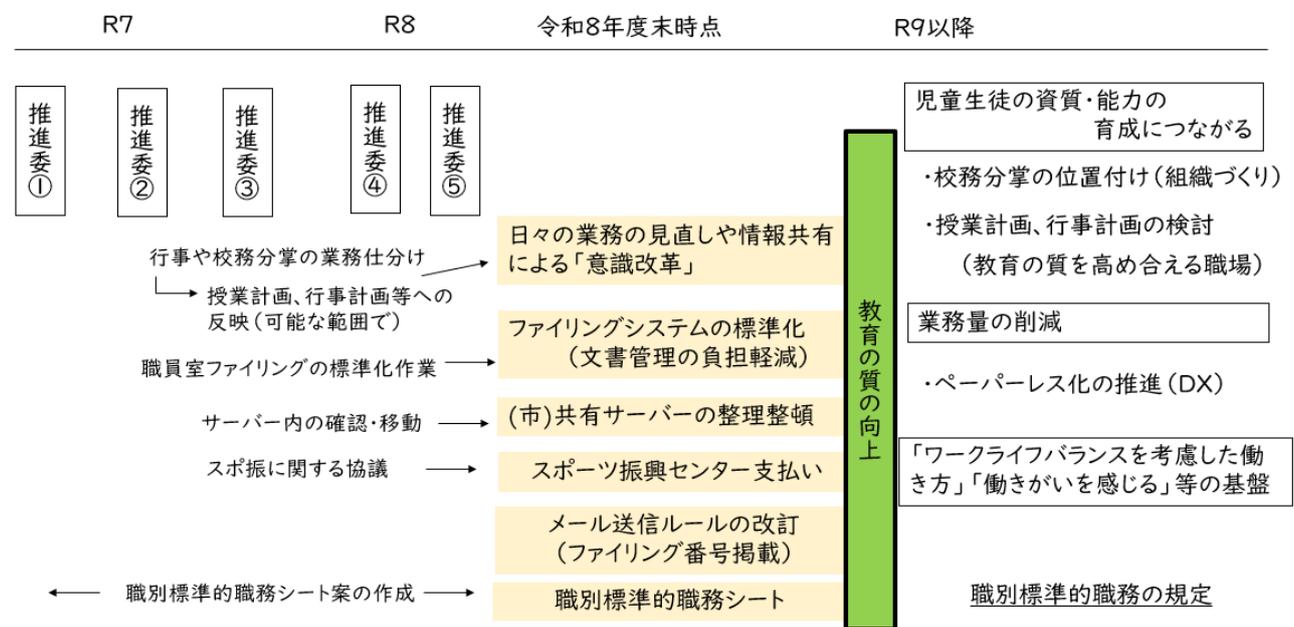
- ・部分休取得者が多い学校では放課後の分掌業務が困難。多様な働き方と業務分担のバランスが課題。
- ・体育館開放など教頭の兼務業務は、市教委が他課と連携して支援を。
- ・栄養士の提出文書の見直しや、給食未納対応の範囲整理も必要。

### 【校内支援体制の強化】

- ・校内支援室は中学校だけでなく小学校にも必要。指導員の配置を検討。
- ・SSS による校内巡視や、保護者連絡の ICT 化（例：リーバー活用）も提案された。

## 3 今後の見通しについて

令和7・8年度、県教育委員会より推進地区としての指定を受けており、以下に示した方向で取組を進めていきたい。



### 第3回学校経営における職と職務の再編推進委員会報告資料

#### 1 業務仕分けにおける各校の取組 ※実践は別紙「夢コーディネーターの取組」参照 (成果)

- ・多種多様な業務を行っていることの実感
- ・教育的価値や目的を再考する機会
- ・行事における業務の偏り  
(特活主任の負担が大きいので協働や移管を検討)

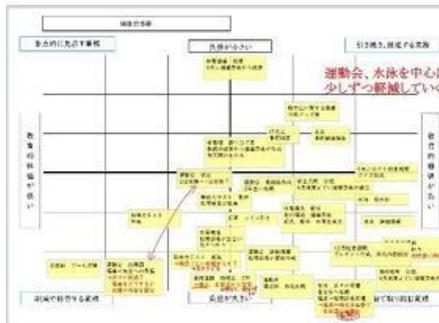


- ・いろいろな行事等で業務仕分けに取り組みたい
- ・校務の見える化、他職種の業務内容や一連の流れや取組が共有できる

#### (課題)

- ・業務リストアップや仕分けを行う時間をいかに生み出すか。
- ・教育的価値や子どものためを考えると、削減・移管できるものが限られる
- ・業務仕分けしたものを次年度の教育活動にいかに反映していくか。

#### <健康指導部>



#### 職と職務の再編

	①「削減できる内容」	②「他の分掌及び、外部に移管できる内容」	③「協働できる内容」	検討結果とその理由(簡単に良い)
教頭	○卒業式・入学式・飛翼祭の来賓案内状 ○学校運営協議会案内状	○【夜間開放・施設貸出】 ○留守電の管理 ○フレーム対応	○ブログ ○施設管理(修繕対応) ○各種調査 ○外部機関への連絡調整 ○中学生全員保険加入	○削減できる内容については、学校長と相談していく。ただし、市議会議員については、市教委で一括して伝えてもらいたい。 ○留守電については、時間になったら留守電になる機能をつけてほしい。 ○フレーム対応について、留守電に録音機能をつけてほしい。 ○ブログ、施設管理等は各分掌に新たな体制を創設していく。 ○中学生全員保険加入については、市全体ですすめてほしい。保護者と学校とのトラブルを未然に防ぐ。
教務			○表彰関係担当 ○諸表簿出席簿管理係	○表彰係 反映する。理由：表彰関係を中心とする作業・介添え等を考えるともう一人担当がいたほうがよい。 ○出席簿関係 反映する。理由：複数の目で出席簿を確認した方がミスが減らせるため。
研修			○教科主任と一緒に参観資料の本時の目標を点検	○教科で確認することで、より正しい点検が行われる。また一部の部に負担が集中しなくなる。

#### 2 令和8年度の取組に向けて

##### (1) スポーツ振興センターの医療費支払いについて

支払い業務の負担軽減策の検討を考えていたが、令和9年1月より、スポーツ振興センターのシステムが刷新される予定のため、当面は検討状況を注視する。

##### (2) 共有サーバーのフォルダ整理について

- ・フォルダが乱立している状況があるため、整理は必要である。
- ・共有フォルダの使用目的や保存上のルールを明確化しておく必要がある。
- ・夏休み(令和8年夏)を利用して整理ができるように実施する。

##### (3) ファイリングシステムの改善(平準化)

- ・文書保存にあたり、項目が細かくなってしまい、学校ごと違いがある。
- ・教頭会を中心に、学校間の差が生じないように検討を進める。
- ・令和8年度末からの運用をめざす。

##### (4) 職別標準的職務シート(案)について

- ・養護教諭・栄養教諭のシートについては、さらに業務内容の追記が必要。部会等で検討する機会をもつ。
- ・教諭の職務について、学校規模別の取組状況や事例の見える化が図れるとよい。
- ・教頭の業務が多いので、業務をリストアップし、移管・削減等につなげたい。

## 様式 1

# 令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

三島市立北小学校

## 1 取組内容〔校務の分類・整理と見直し〕

本校は、静岡県教育委員会指定事業「学校経営における職と職務の再編のための研究事業」のモデル校である。指定1年目である本年度は、実践のイメージをもつため、本校の行事の一つである「運動会」の業務内容を細かく洗い出し、10月の三島市の推進委員会において推進委員による業務仕分けを行った。ここでは、三島市小中の校長、教頭はじめ、主幹教諭・教務主任、事務職員、養護教諭、栄養士・栄養教諭など、様々な職の推進委員が、それぞれの立場から業務を「引き続き推進」「協働で取り組む」「重点的に見直す」「削除や移管」に分類した。この実践で見えた業務再編のアイデアを本校職員で共有し、12月に「重点的に見直す」「削除や移管」に焦点化して業務仕分けを行った。ここでは、本校職員が、5月末に行われた運動会を振り返り、より自分事として業務改善に向けた具体的な工夫を考え、活発に話し合うことができた。この実践において出された業務の整理、見直しの考えは、来年度の運動会の計画の際に活用し、実践につなげていく予定である。



## 2 取組の成果

教育的効果が低いと考えられる業務（来賓の湯茶の準備、職員の昼食の注文等）は削除する、業務の取り組み方を工夫して教育的効果を維持する（入退場の放送は全学年で統一、応援団の活躍の場を既存の取組に重ね、指導の負担を軽減）といった様々なアイデアが出された。職員アンケートでは、運動会のねらいを達成しながらも、保護者、地域ボランティアなどの力を借りたり、効率よく実践する工夫をしたりして、業務のスリム化が進むのではという期待や手応えを感じたという感想が多数見られた。他の行事についても、みんなで話し合い業務仕分けをしたいと考える職員も多く、業務仕分けについて前向きに捉える様子が見えられた。

## 3 取組の課題

様々な行事において、業務仕分けをしたいという意見が多数挙がったが、その時間を生み出すことが難しい。教育的効果についての捉えは職員によって様々であり、子供の指導に関する業務の見直しは話し合いを重ねる必要がある。また、現状学校だけでできる工夫には限界があるため、県や国が主導の抜本的な改革が望まれる。

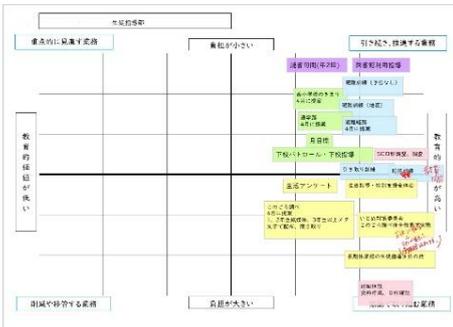
## 令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

三島市立西小学校

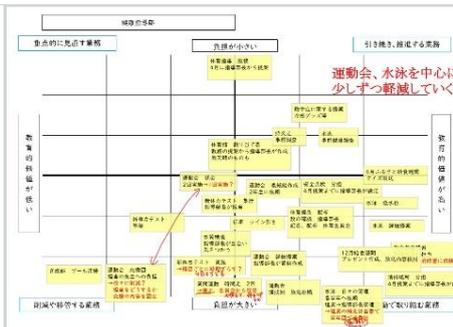
### 1. 取組内容〔校務の分類・整理と見直し〕

本校では、「働き方改革に取り組む意識改革」及び「業務の軽重や精選」を目的に「業務の見える化」を進めた。まず、指導部ごとに今年度行った行事やその行事に関連する業務をリストアップし、①引き続き、推進する業務、②協働で取り組む業務、③重点的に見直す業務、④削減・移管したい業務、の4つのカテゴリーに仕分けした。2回目は同様の内容を低・中・高の学年団で行い、内容を各学年の業務や指導部に分類されない全校行事とした。時期としては1月の学校評価会議の中で行い、その結果を来年度の教育課程の編成に生かせるようにした。

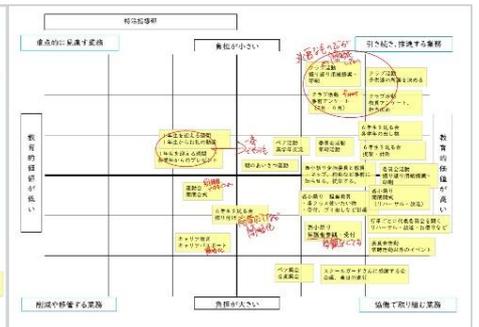
#### <生徒指導部>



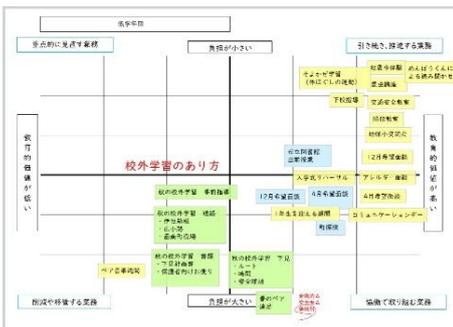
#### <健康指導部>



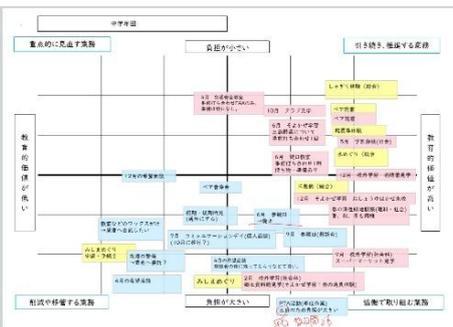
#### <特活指導部>



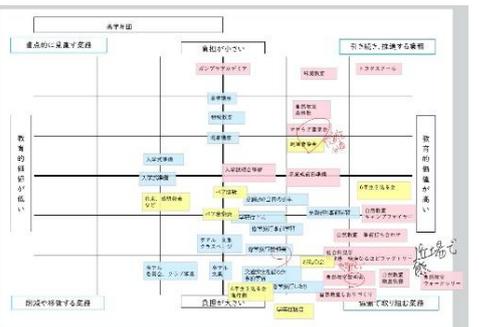
#### <低学年団>



#### <中学年団>



#### <高学年団>



### 2. 取組の成果

- ・改めて業務の価値や負担を考える機会になった。
- ・闇雲に削減、削減ではなく、教師にとってどうか、子供にとってどうか、という視点で話し合いが進められたのはよかった。
- ・付箋を使ってグループ分けしていくことで、教育的価値の高いものや、あまり高くないもの、また、負担が多い業務が一目でわかり、業務改善に繋がっていったと思った。
- ・付箋に書き出すことで、どんな業務あるか、思い返すことにつながった。
- ・教育的価値、負担の大きさに仕分けできるため、考えやすい。
- ・他の方達の業務内容がわかり、議論の土台に立ちやすかったため。

### 3. 取組の課題

- ・ここで話し合ったことを生かした教育課程を作って実践にどう繋げていけるかが課題となる。
- ・年間を通しての「業務の見える化」だったので、もう少し期間を短く、行事ごとに取り組めるとよいと感じた。
- ・続けていくことで確実に業務が厳選されていくため、これからも続けるべきだと思った。そして、前年度の見える化グラフで挙げた代替案や廃止案が、実際に実施されていたかを振り返ることも重要だと思う。



様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による  
学校の働き方改革取組状況報告書

三島市立山田小学校

1 取組内容〔校務の分類・整理と見直し〕

○行事の業務仕分け…山田っ子学習祭（特別活動行事）

(1) 業務のリストアップ〈個別作業〉(図1)

- ・エクセルシート【共有】をかけ、だれでも打ち込めるようにした。
- ・細かい業務でも打ち込むようにし、見直しについて考えられるようにした。

(2) 分類作業〈グループワーク〉(図2)

- ・横軸を「教育的価値」、縦軸を「業務の負担」で分類をした。
- ・1・2年部、3・4年部、5・6年部、フリー部でグループを組むことにより、学年間による業務に対する捉え方の違いが分かるようにした。

2 取組の成果と課題

○成果

- ・多種多様な業務を行っていることを実感することができた。
- ・多くの業務を特別活動主任が担っていることが分かった。
- ・整理・分類することで、業務分担の視点をもつことができた。
- ・学年間で整理・分類することで、教育的価値について違いがあることが分かり、今後の行事の目的の立て方、その後の指導についても改善が必要であることが分かった。

●課題

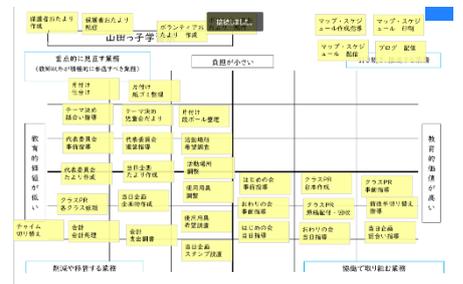
- ・業務分担をすることで、担当が分担されることはいいが、児童の指導についての視点も明確にする必要がある。
- ・教育的価値について考えることによって、業務の整理分類の視点もより明確になる。目的を再考することから始めることも必要である。

3 その他

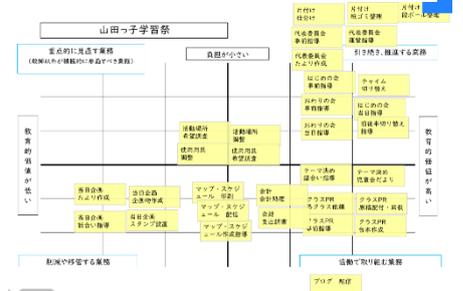
- ・業務のリストアップ、分類整理をすることで、業務の見直しにはつながる。
- ・多種多様な業務を一度見直すには、価値のある作業である。
- ・行事の在り方や目的については再考し、見直しや削減も必要である。
- ・業務のリストアップ、分類整理を教職員だけでなく、PTAや地域の方も一緒に取り組むことで、より校務の整理や見直しも進むのではないかと考える。

業務	内容	業務	内容
保護者からより	作成	はじめの会	台本作成
保護者からより	配信	はじめの会	役割分担
山田っ子学習祭	作成	はじめの会	児童会審判指導(リハなど)
山田っ子学習祭	印刷	はじめの会	校長先生にお話の依頼
山田っ子学習祭	配信	おわりの会	台本作成
校内マップスケジュール	配信	おわりの会	役割分担
校内マップスケジュール	作成指導	おわりの会	児童会審判指導(リハなど)
校内マップスケジュール	印刷・ポストに入れる	おわりの会	校長先生にお話の依頼
プログラム表	撮影	おわりの会	多人数へ感想発表指導
プログラム表	配信	終了終了・後学閉校などの放送	児童会審判指導(リハなど)
チャイム	切替を入れる	スタンプラリーの案内	アサイン作成指導
片付け	段ボール整理	スタンプラリーの賞状	印刷
片付け	紙ごみ整理	スタンプラリーの賞状	配布指導
片付け	仕分け	スタンプラリーの案内	配布指導

(図1 業務のリストアップ)



(図2①1・2年部の整理分類)



(図2②5・6年部の整理分類)

## 様式 1

# 令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

御殿場市教育委員会

この度のランサムウェア攻撃によって、市内ほとんどの学校のデータが消失する甚大な被害を受けた。各校では、これまでの日常を取り戻すために、時間外勤務もいとわず職務にあたっている状況である。そんな中、ランサムウェア被害以前の取組として提出いただいていた学校の資料を基に、取組状況報告書を市教育委員会がとりまとめ報告する。

## 1 取組内容

### (1) ICTの活用〔校務の分類・整理と見直し〕

- ・連絡アプリ C-learning によって、児童の欠席や遅刻早退等のやりとりを行う。(東小)
- ・プールや持久走可否に伴う健康チェックを C-learning で行うことにより、一覧化されたものを担任がすぐに確認することができるようになった。
- ・C-learning で PTA 総会資料を配付し、賛成・反対の決を取ることで、参集せずに PTA 総会を実施することができた。(東小)
- ・紙媒体で配布していた保護者への配布物を PDF 化した電子データで送信するようにした。(東小)
- ・ロイロノートを用いて学校評価アンケートを行った。ICT 支援員に取りまとめの支援をお願いして行った。(東小)
- ・教育課程のデータと保護者に配付する月の行事予定のデータを紐づけすることにより、転記する手間を減らすとともに、マスターデータを一元化した。ソフトの改善は ICT 支援員にやっていただいた。(東小)

### (2) コミュニティ・スクール導入を生かした取り組み

#### 〔人的資源の配置・活用、地域・家庭、関係機関等との連携〕

- 今年度から導入したコミュニティ・スクールの仕組みを生かし、地域に学校ボランティアを呼び掛け、学校ボランティアにトイレ掃除や草取りを依頼した。(玉穂小)
- 地域人材一覧表を作成し、地域で様々なボランティアに協力していただける人材や団体を学校で把握し、授業での協力依頼や環境整備などで活用した。(玉穂小)
- 授業における支援や環境整備等で、学校ボランティアを活用した。教職員の負担が軽減され、児童にとってより豊かな学習活動や体験をすることができた。また、ボランティアの専門性を生かした取組や関わりのおかげで、より質の高い授業を行うことができた。(高根小)

<ボランティアの方に協力してもらったこと>

- ・弓道教室（西ふれあい広場・弓道場利用）
- ・ぽかぽかタイム（読み聞かせボランティア）
- ・ライオンズ号来校（移動図書館）
- ・草刈り、雑草除去、樹木の剪定 仕方の支援
- ・ICT 支援員によるタブレット活用の仕方の支援
- ・校内の掲示物の制作と掲示
- ・正月飾りの製作

- 児童が自身の住む分校区を知るために、「分校地区探検隊」と題した地域探検を行った。分校区内を探検するに際し、地域の湧水を使ったわさびづくり名人や、歴史ある寺院の尼さんに話を聞くことができた。分校区の自然環境の特徴や、史跡を知ることができ、地域愛を深めることができた。地域のお祭りに参加するために、神輿を児童とボランティアで作成し、奉納した。

<ボランティアの方協力してもらったこと>

- ・地域の湧水見学 ・わさび農園の方のお話と見学
- ・地域の寺社、史跡見学
- ・公民館等の施設 ・地域行事への参加

- 授業サポーターの活用（高根小）

①生活科の支援

生活科（わくわくタイム）では、校地内の畑で野菜作りについて生育の仕方を高根地区に居住する内務員に教えていただいた。また収穫した野菜を使っての調理実習のサポートもお願いした。火器や刃物を使った時の安全が十分に確保できた。

②水泳の授業では、保護者ボランティアを依頼し、プールサイドで担任と共に子供の安全を見守ることを依頼した。大人の目が増え、安全も確保することができた。

**(3) 部活動の終了時刻の見直し、部活動地域展開モデル事業の実施**

**【教職員の働き方の見直し、効率的・効果的な部活動の実現】**

- ・部活動の終了時刻を、市内統一で 16:30 とした。（市内中学校）
- ・部活動地域展開に向けたモデル事業（剣道クラブ）を実施し、生徒・保護者・指導者にアンケート調査を行い、その効果を検証した。（市内中学校）

**(4) スクールカウンセラー、相談員の有効活用**

隔週午前中勤務を有効活用し、児童のきめ細かい見取りや言葉掛けを依頼した。担任との情報交換の時間確保することで、児童理解を深めることにつながった。児童一人一人に目が行き届くことができ、専門的なアドバイスをもとに個への対応を丁寧にすることができた。（高根小）

## 2 取組の成果

- ・C-learning を用いることで、電話連絡の手間が減った。(東小)
- ・健康観察時の担任のチェックが楽になった。紙媒体使用時に発生した保護者の確認印の押し忘れなどの問題も無くなった。(東小)
- ・膨大な紙面量となる PTA 総会資料のペーパーレス化ができ、印刷の手間が減った。会場作りや片付けの負担も無くなった。(東小)
- ・お便りの電算化により、印刷配付の手間が減るとともに、配付のし忘れも無くせた。(東小)
- ・ICT 支援員を活用することで、教務主任の業務の効率化、負担軽減が進められた。(東小)
- ・データの一元化により、確認作業の簡略化とヒューマンエラーを減らすことにつながった。(東小)
- ・コミュニティ・スクールの導入に合わせて、職員が担っていた環境整備の役割を地域の皆様をお願いすることで、地域の皆様の学校への理解を深められるとともに、職員の環境整備に係る時間を軽減できた。(玉穂小)
- ・校内外の人的資源を必要なときに必要な場所に配置し活用することで、教職員の業務に軽減された。様々な人材を活用することができ、体験的な授業を構想することで、児童がより豊かな学びをすすめることにつながった。
- ・部活動の終了時刻を 16:30 とすることで、中学校における時間外勤務を大幅に減らすことができた。(市内中学校)
- ・部活動地域展開のモデル事業の成果として、セントラル方式を活用して実施した剣道クラブでは、兼職兼業届を出し指導にあたった部活動指導員は熱心に指導にあたっていただくとともに、他の学校の剣道部顧問については、土日の指導が軽減されることで、非常に評判が良かった。(市内中学校)

## 3 取組の課題

- ・教員の負担は減らせたが、保護者に来校していただく機会が減っている。学年単位で参観日を設けるなど、無理のない範囲で保護者に実際の様子を見ていただく機会を設けていくなど、工夫が必要である。(東小)
- ・地域の方々に学校へ来校していただく機会を今後増やしていくためにも、コミュニティ・スクールについての広報を積極的に行い、コミュニティ・スクールへの理解を深めていきたい。(玉穂小)
- ・ボランティアの人数の確保を依頼し、年間計画の中に位置付けることが難しかった。また、打ち合わせの時間の確保も必要である。地域への理解を深めるために、分校だよりで活動の様子を地区の方々に伝えていく。(高根小)
- ・部活動の活動時間が短くなり、子供たちの得られる満足感が十分であるかは疑問が残る。今後の部活動地域展開とともに、学校内における勤務時間内の放課後の活動の在り方を検討していく必要がある。(市内中学校)

## 令和7年度 業務改善のための島田市教育委員会の取組

### 島田市教育委員会学校教育課

#### 1 校務DXを進めるためのICT活用に係る研修の充実

##### (1) 全教職員のスキルを底上げするための研修会の実施

Google Workspaceの基礎的な活用研修を全教職員対象に行った。同じ内容の研修会を1年の中に5回計画し、参加できる日を教職員が選べるようにすることで全員のスキルアップを目指した。

##### 【成果】

- ・アンケートフォームやスライド作成等、校務や授業にすぐに生かせる技能を身に付けることができた。
- ・教員間の技能の差を縮め、今後、学校全体でさらに校務のDX化を進める上で必要な知識を身に付けることができた。



##### (2) 校内ポータルサイト作成のための研修会の実施

昨年度まで、一部の小中学校で作成、活用していた校内職員用ポータルサイトを全小中学校で作成、活用できるようにするために主幹教諭・教務主任対象の研修会を行った。

##### 【成果】

- ・参加者からは「作業の効率化、情報伝達の迅速化に期待できる」との感想が聞かれた。
- ・現場からは、職員会議資料や教育課程冊子を掲載することで印刷の手間がなくなった、ペーパーレスに繋がったという声が聞かれた。また、多くの教職員がいつでも、どこでも情報の確認や入力ができる利便性を感じている。

#### 2 市内小中学校共通のメール連絡網の活用

昨年度から島田市独自のメール連絡システムを活「学校⇄保護者」だけではなく、「市役所の各課⇄保護者」の連絡手段として活用した。

##### 【成果】

- ・市から出された通知、チラシ類の印刷や配布等の業務の負担が軽減された。
- ・通知にQRコード等を掲載することで市が主催するイベントへの参加の申込み、調査回答は保護者が直接行い、学校が集約や市への送付をすることがなくなった。



# 令和7年度磐田市教育委員会の働き方改革取組状況報告書

## 1. 教育委員会お知らせサイトの作成・活用



左のような教育委員会のサイトを作成し、外部団体、磐田市役所各課等からのチラシ・案内を掲載した。

月に1度、連絡アプリを使用して保護者にURLを送付し、閲覧を促した。

紙媒体での配布を大幅に削減し、学校職員の負担を軽減することに繋がった。

当初は、紙媒体での配布ができないことへの不安の声もあったが、印刷費用や紙資源の削減につながったという声が多く届くようになった。

## 2. 教職員交流サイト「Edu-Link」の作成・運用



磐田市内の小中学校の職員が閲覧できる交流サイトを立ち上げて、運用している。

このサイトによって、磐田市教育委員会の教育施策を動画等の資料で周知することによって、研修会の削減につながった。

また、ICTアシスタントの予約状況を確認・予約できるページを作り、アシスタントの予約が容易になった。

今後は、大雨・台風・地震・津波などの警報等への対応や被害報告等を一元的に共有・管理できるページを作り運用していく予定である。

教育委員会の職員にも文部科学省や静岡県教育委員会の施策を学べるという声があり好評である。



様式 1

「学校事務再編」の取組に係る推進地区による学校の働き方改革取組状況報告書

市町教育委員会名

湖西市教育委員会

1 学校におけるスリム化・スクラップした業務（現在検討している業務を含む）

- ・各学校で作成していた様式を市教委作成の様式に統一（退学届、退学報告書、在学証明書、成績証明書、卒業証明書、卒業見込証明書等）
- ・校務分掌表の見直し（記載する分掌名の統一）
- ・学校経営書等の各種様式についての見直し

2 学校における今までの校務分掌から新たに変更した業務、協働した業務（現在検討している業務を含む）

例：教員から事務職員へ移管・協働した業務

教員から養護教諭へ移管・協働した業務

新たに共同学校事務室や市町教育委員会等に移管・協働した業務

- ・修学旅行の業者選定業務
- ・校外学習時のバス手配（見積依頼含む）
- ・養護教諭不在時の出席停止文書作成
- ・校務支援システムへの名簿内容変更入力

3 市町教育委員会での進捗状況等

例：〇月に校長会にて、各学校の進捗状況を確認

働き方改革推進会議で協議し、校長会や教頭会にて伝達

- ・7月に共同学校事務室運営協議会において、これまでの取組状況と今後の方向性について確認
- ・12月の学校管理規則検討委員会終了後、各学校の取組状況を共有、確認
- ・1月に「学校における業務改革プラン～業務量管理・健康確保措置実施計画～」を策定
- ・2月に職員へのアンケート調査の実施を予定

4 課題とその解決案、次年度に向けて

<市教委>

- ・共同学校事務室の取組を全職員へ周知する体制
- ・効果的であった取組（学校、各職員）を共有する体制
- ・定期的なアンケート調査を実施し、取組の効果を検証

<学校>

- ・管理職のリーダーシップの発揮
- ・教職員全体が自身の業務を見直すという意識の醸成